**「ヒンドゥ教とお釈迦様の教え」**

2019年7月14日

夏期戸外リトリート

スワーミー・メーダサーナンダによる講話

於・善通寺・御影堂・舎利講

皆さん、おはようございます。まずは、神聖な言語であるサンスクリット語で祈ります。サンスクリット語はヒンドゥ教の聖典だけでなく、仏教の聖典にも用いられています。たくさんの中国の、のちには日本のお坊さんや信者さんがサンスクリット語を学ぶためにインドに来ました。それだけではなく、インドの仏教のお坊さんも中国へ渡り、中国と日本のお坊さんに教えました。

これからサンスクリット語のマントラ〔サンスクリットの聖語。ジャパ（唱名。神の御名の反復）に用いられる聖句。真言。〕を祈りますので、よろしければ皆さん一緒に唱えてください。

オームアサトーマーサドガマヤ

タマソーマージョーティルガマヤ

ムリッティヨールマーアムリタムガマヤ

神様、非実在から実在へ、導いてください。

無知の暗闇から知識の光へ、導いてください。

死から不死へ、導いてください。

別の普遍の祈りを、皆さんの健康と幸福のために唱えます。皆さん繰り返してください。

サルヴェーバヴァントゥースキナハ

サルヴェーサントゥーニラーマヤハ

サルヴェーバッドラーニパッシャントゥ

マーカスチードドゥッカバーグバヴェート

次の祈りもサンスクリット語です。ゴータマ・ブッダ（お釈迦様）の信者、仏教のお坊さんも唱えています。我々ヒンドゥ教徒もこのマントラが好きなので、日本ヴェーダーンタ協会でも唱えています。今から唱えますので皆さん繰り返してください。

ブッダンシャラナンガッチャーミ

ダルマンシャラナンガッチャーミ

サンガンシャラナンガッチャーミ

仏様が我々の避難所となりますように。

お釈迦様の教えが我々の避難所になりますように。

お釈迦様の僧団が我々の避難所になりますように。

感謝をこめて申し上げます。善通寺のご住職様方のおかげで、善通寺と日本ヴェーダーンタ協会の連携による夏の例会ができたことを、心からお礼を申し上げます。四国は弘法大師様がお生まれになった神聖な場所ですが、その中でもこのお寺がもっとも神聖な場所です。というのは、まさにここで弘法大師様がお生まれになったからです。

私の話の内容は、ヒンドゥ教徒がお釈迦様の教えについてどのような印象を持っているかについてです。まず、ヒンドゥ教の特徴についてお話しします。

ヒンドゥ教の特徴のひとつは、なによりもまず、ただひとつの神だけが存在する、ということです。ヒンドゥ教にはたくさんの神様や女神様が存在するように思われるかもしれませんが、それらすべての数多くの神様や女神様は、ただひとつの神の多面的なあらわれに過ぎません。

ヒンドゥ教のもうひとつの特徴は、その神のことを「絶対の真理」と呼ぶことです。「絶対の真理」は、皆さんを平安の道、真理の道へと導くために、時として人間としてあらわれます。例えば、インドのクリシュナは「絶対の真理」が人間の形であらわれました。お釈迦様も同じ「絶対の真理」の特別なあらわれです。ヒンドゥ教では、神の化身とは「絶対の真理」が人間の形をとった特別な神のあらわれのことをいいます。

日本には神の化身という概念はないようですが、お釈迦様は皆さんを真の平安の道、真理の道へと導きたい、という目的を持って人間の形であらわれました。イエス・キリストも神の化身です。ヒンドゥ教のもうひとつの特徴は、信仰の数だけ道がある、と考えていることです。数々の宗教がありますが、本当は、宗教は実際にはひとつだけです。例えば、アメリカで太陽のことをサンといい、インドではスーリヤ、日本では太陽といいますが、太陽はひとつしかないように、宗教も本当はひとつだけなのです。すべての宗教は例外なく、清らかさ、普遍の愛、慈悲について語っています。だから、我々ヒンドゥ教徒は、仏教もキリスト教も尊敬しているのです。

お釈迦様とヒンドゥ教には特別な関係があります。お釈迦様はインド〔現ネパール〕で生まれ、実践し、悟り〔ニルヴァーナ〕、教えを広め、インドで入滅されました。だからお釈迦様とインドには深い関係があるのです。そしてお釈迦様は、ヒンドゥ教の数々の聖典を学んだ高いレベルの学者でもあられました。悟られたのちには、ご自身の独自の教えを創造されましたが、その教えはヒンドゥ教の教えとたいへんよく似ています。

我々がお釈迦様をとても好きな理由は、お釈迦様の慈悲と普遍の愛が比類のないものだからです。これまで世界中にさまざまな聖者がおられましたが、信者に尽くすために自らの体を捧ささげる、という彼ほどの慈悲と普遍的な愛を持った聖者は本当にまれです。彼の慈悲はハートの特別な慈悲なので、我々はお釈迦様をとても尊敬しているのです。

また、尊敬するだけでなく、ブッダガヤというお釈迦様が悟りを開いた場所に巡礼にも行きます。ヒンドゥ教徒もブッダガヤを巡礼の地だと考えているからです。そこには古いお寺があり、タイ、スリランカ、ミャンマー、日本など世界中の人々が巡礼に来ます。私も日本ヴェーダーンタ協会の信者とお釈迦様への尊敬の気持ちをあらわすために、巡礼に行ったことがあります。

ヴェーダーンタ協会はヒンドゥ教ですが、インドの本部において、また世界中の数多くの国々の支部においても、お釈迦様の誕生日を祝います。キリスト教の教会でお釈迦様の誕生日を祝うことを想像できますか？仏教寺院でシュリー・クリシュナの誕生日を祝うことも、考えられません。しかし我々は神と神の宗教の調和を信じているので、毎年お釈迦様の誕生日を祝うのです。クリスマス・イブも祝います。また、逗子にあるヴェーダーンタ協会センターのアーシュラムでは、毎週日曜日にお釈迦様のために特別なお経をあげ、勉強会をしています。このように我々はお釈迦様と関係が深いのです。

皆さんが多分ご存じないことをお話します。ヴェーダーンタ協会の本部であるラーマクリシュナ僧団と僧院は1897年にインドのコルカタにおいて設立されました。その約5年後に岡倉天心がインドに来られ、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダに挨拶をするために、我々の本部を訪問されました。その際にある真言宗のお坊さんの若い息子さんが日本から一緒に来られたのです。彼は半年ほど我々の本部と僧坊に滞在し、サンスクリット語、英語、仏教を学びました。その方の名前はシトク・ホリ〔堀至徳〕さんといいます。真言宗のお坊さんの息子さんが、それほど遠くない過去に我々の本部に滞在していた、ということはとても特別なことだと思います。

仏教はヒンドゥ教から影響を受けました、そしてヒンドゥ教は仏教から影響を受け、高められてきたので、ヒンドゥ教徒は仏教と深い関係があるということも信じています。それくらい深い関係をヒンドゥ教徒はみているわけですが、残念なことにこの気持ちを分かち合えるのは、ごくわずかな仏教徒だけです。我々は、仏教のお坊さんと信者さんがもう少しヒンドゥ教について勉強されるのがいいと信じています。もしヒンドゥ教の聖典を勉強されると、これら2つの偉大な教えがどれだけ多くのアイデアを共有しているかが分かります。ヒンドゥ教徒はお釈迦様の教えからたくさんのインスピレーションをいただいています。同様に、もし仏教のお坊さんと信者さんもヒンドゥ教の聖典を勉強なされば、そこからインスピレーションを受けることができます。このことはみんなにとって良いことではないでしょうか？

私の個人的な助言として、少なくとも2つのヒンドゥ教の聖典を勉強なさることを提案させていただきます。ひとつは『バガヴァッド・ギーター』というヒンドゥ教で一番有名で人気のある聖典です。それは遅くとも3000年前に作られたのですが、そのメッセージは、現代にも通用すると感じられます。もうひとつ私がおすすめするのは『ラーマクリシュナの福音』という聖典です。シュリー・ラーマクリシュナは、現代においてもっとも有名な聖者で、『福音』の内容は、書き留められた彼の言葉と教えなので、聖典なのです。これらの聖典を勉強することで、道徳的または霊的な生活を助けるための多くの解決法を見いだすことができるでしょう。

先ほども述べましたが、ヒンドゥ教徒は仏教の勉強をし、お釈迦様のことをよく理解しています。しかし仏教徒の皆さんがヒンドゥ教のことをあまり知らないと、本当の宗教の調和はできません。宗教の調和ができなければ、世界の調和はできず、人間と人間との調和さえできません。なぜなら、人間と人間との調和、国と国との調和の大事な基礎は、宗教と宗教の調和だからです。

その点において、仏教寺院である善通寺とヒンドゥ教のヴェーダーンタ協会の連携の結果として、日本の仏教のお寺の祭壇でインドから来たヒンドゥ教のお坊さんが話をする機会が与えられたことは、日本における歴史的な瞬間です。ふつうのできごとではありません。私はこの瞬間が、もっとも特別なできごととして、善通寺の歴史に書かれると思います。それは善通寺の法主猊下（ほっすげいか）、お坊様方、そして我々の友である浄圭さんの努力のおかげで実現しました。

ありがとうございました。